

ASUKA

CLUB MAGAZINE

THE FINEST
VOYAGE
TOGETHER

新たな大航海へ

朝食グリル
ランドリー
西川悟平
坂東玉三郎
佐治晴夫

ゆったりクルーズの魅力
飛鳥IIのメンテナンス



ASUKA CLUB MAGAZINE

NO. 109

Summer 2024

2024年7月26日発行

発行/郵船クルーズ ASUKA CLUB 事務局
〒230-8501 横浜市中区みなとみらい2-2-1 横浜ランドマークタワー47階 TEL. 045(640)5302
発行人/ 尾藤 弘之
ホームページ <https://www.asukacrui.se.co.jp>



My ASUKA CLUB

ご入会で “うれしいこと” 盛りだくさん!

My ASUKA CLUBは、
入会金/年会費無料のデジタル会員サイト。
さまざまな特典をご用意しています。
会員サイト開設前に
「アスカクラブ」へ入会されていた方も
My ASUKA CLUBへの
ご登録をお勧めします。

ご乗船のたびに
割引券がもらえる!

お誕生日特典
船上クーポン!

お得な料金で
乗船できる!

My ASUKA CLUB特典

- ご乗船後に「デジタルご優待割引券」を進呈(泊数に応じて3,000円~25,000円分)次回クルーズにご利用いただけます。
- 毎年お誕生日特典として3,000円分の船上クーポンをプレゼント。有料のお飲物、お土産購入などにご利用いただけます。
- お得な料金で乗船できる「アスカクラブ特別割引」をご利用いただけます。
- 「飛鳥III」など最新情報の他、キャンペーンのご案内、プレゼント企画、お得な会員様限定の割引情報をお届けします。

登録してなかった!
そんな方も大丈夫



ご登録いただくと、ご乗船から2年以内の方は登録前に
ご乗船された分もさかのぼって「デジタルご優待割引券」を進呈します。
(有効期限は下船後2年)

入会登録は簡単!

My ASUKA
CLUB
ご登録方法



お手元のスマートフォンやパソコンなどから
ご登録いただけます。「マイアスカクラブ」で検索、
または右記二次元コードからご登録いただけます。



マイアスカクラブ 検索 <https://myac.asukacrui.se.co.jp/login>

ご登録・操作に
お困りの方



My ASUKA CLUBご登録サポート窓口(無料)

電話 **045-522-0245**

ご自身のパソコンやスマートフォンの操作上で、わからない点をサポートスタッフがアドバイスします。

ご登録・操作を
代行して
ほしい方



My ASUKA CLUB有料サポート窓口

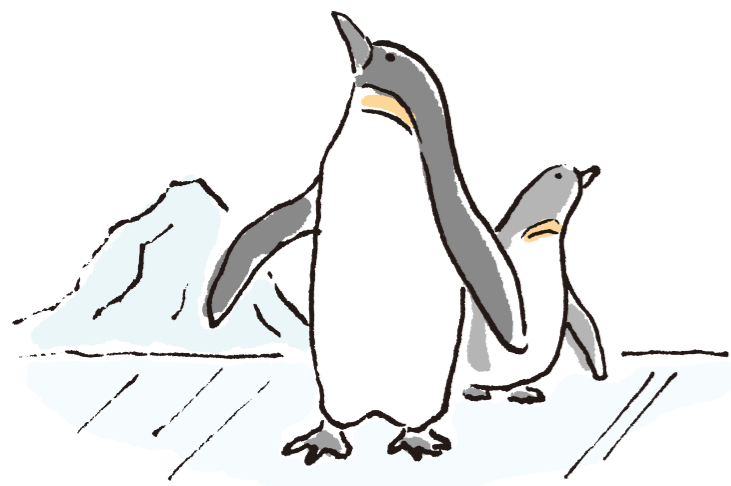
電話 **045-522-0408**

あらかじめご自身のメールアドレスをご用意いただければ、新規ご登録の他、
デジタルご優待割引券の利用申請など、パソコンやスマートフォンで行う
「My ASUKA CLUB」の操作をお客様に代わり専任スタッフがいたします。
※お一人様3,000円の年会費が必要ですが、正式にご依頼いただくまで料金はかかりません。
まずはご相談ください。

メールアドレスやスマートフォン等
お持ちでない方も
ご登録ができるようになりました!

キャンペーンを含むお知らせメールは届きませんが、
デジタルご優待割引券や船上クーポンはご利用いただけます。
まずはお気軽に「有料サポート窓口」へお電話でご相談ください。

※各サポート窓口営業時間 10:30~17:00 土日祝休業 また、通話料はおお客様のご負担となります。



4

Special Feature 1

ゆったりクルーズの魅力
ゆとりから生まれる

“出会い”
という喜び

2025年 8

世界一周クルーズ
飛鳥IIとの世界一周は
これが最後

Asuka Cruise Interview ⑧

西川悟平 さん 12

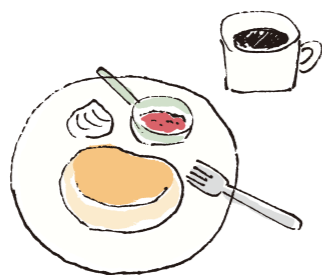
もっと知りたい飛鳥のこと ⑧

シップスランドリー 14

Special Feature 2

クルーズの安心・安全と
快適をささえる

「飛鳥II」の
メンテナンス



Cruising Library ⑨

宙と人を結ぶ豊かな船旅 10
佐治晴夫



16

Cruise Report

坂東玉三郎 18
「飛鳥座」クルーズ
船上に訪れた
春の夜の夢

工房を訪ねて⑤

山岸一男 22

美食遊覧⑧

リドガーデンの朝食グリル 24



Welcome Aboard	26
Online Shopping	28
Cruise Desk	29
Club Information	30

発行／郵船クルーズ株式会社
アスカクラブ事務局
〒220-8147
横浜市西区みなとみらい2-2-1
横浜ランドマークタワー47階
電話 045(640)5302
発行人／遠藤弘之
制作・編集／浪漫堂、アドレックス浪漫堂
AD+デザイン／圓本一宣デザイン事務所
写真／坂本泰士、尾鷲陽介、名取和久、北田理純、
大室徹也
イラストレーション／楠木雪野、高寄尚子、楠のぶお
©郵船クルーズ株式会社
※本誌の記事および写真の
無断転載・複写をお断りします。

新船長就任の
ごあいさつ

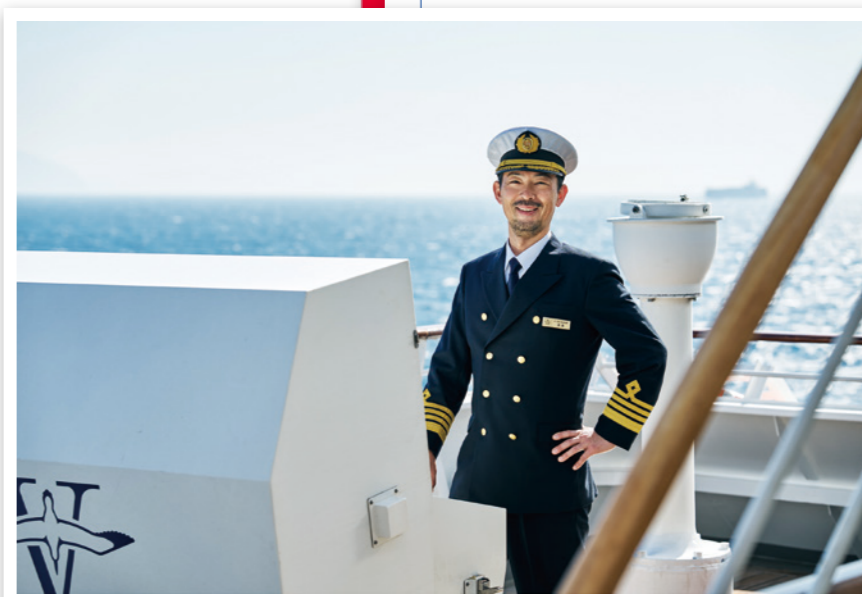
アスカクラブ会員の皆様、このたび飛鳥クルーズ第15代船長に就任いたしました渡辺恒介です。

初代「飛鳥」には二等航海士、次席一等航海士として5年間乗船後、貨物船を経験し、2015年から2017年までの2年間は「飛鳥II」の副船長を務めました。2024年3月より、ご縁あって飛鳥クルーズ第15代船長として「飛鳥II」に戻って参りました。

2025年には「飛鳥II」と「飛鳥III」の2隻運航もスタートします。これまで以上に、多くのお客様に飛鳥クルーズの良さ、時代に即したサービス、そして進化を遂げたおもてなしを提供できるよう挑戦して参ります。「飛鳥III」の就航まであと約1年、アスカクラブの皆様と同様、希望に満ちた新しい船出を心待ちにしております。

それまでは、皆様と「飛鳥II」で同じ時間を共有できることを楽しみにしております。皆様一人ひとりとの出会いに感謝し、唯一無二の素晴らしい飛鳥クルーズの体験を皆様にお届けできるよう、誠心誠意、努めてまいります。

飛鳥クルーズ第15代船長 渡辺恒介



Kosuke Watanabe

特集1

ゆったり

クルーズの魅力

Special Feature 1

ゆとりから

生まれる

“出会い”

という喜び

忙しい日常から身も心も

解放できるのが船旅。

ゆったりとした時間から

生まれる出会いが多くあります。

リラックスした笑顔には、

笑顔が返ってきて、

さりげなく会話がはじまる。

気持ちの余裕から好奇心が芽生え、

新たな自分に出会う。

ゆとりから生まれる

“出会い”という喜びを、

さあ、一緒に。



絆との出会い

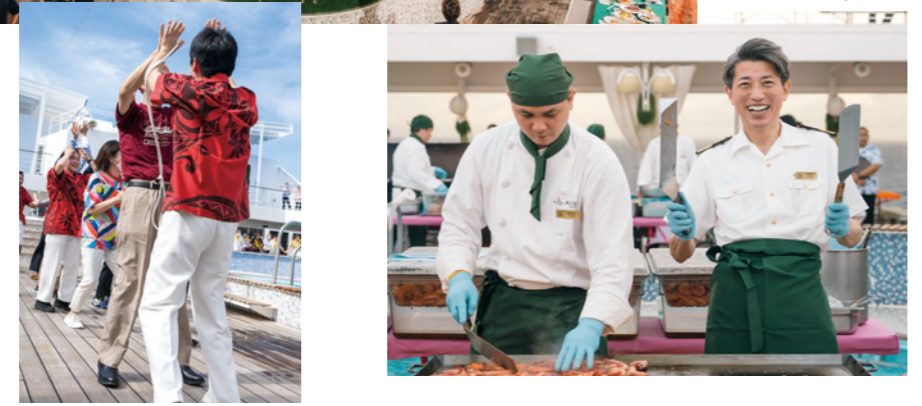
ふとしたことで話を交わして、
 いまでは知己の友人のよう。
 身構えることも照れも、
 この船のおおらかな雰囲気が
 消してくれたようだ。
 社交って、
 案外こういうことなのかもしれない。
 「飛鳥II」での新たな友との出会いが、
 ゆったりクルーズの魅力。

感動との出会い



クルーズ本来の豊かな時間をお過ごしください

クルーズのゆったりと流れる時間。その時間をより豊かにするきっかけづくりが私たちクルーズスタッフの役割です。長いクルーズではデッキディナーが催されることがあります。普段の生活では接点がない世代でもお客様同士のつながりができたり、お客様と接する機会が少ない若い航海士や機関士がテーブルをご一緒することも。たとえば船上運動会の場で同じチームになったお客様がその後のディナーをご一緒されたり。私たちはきっかけをご提供しますが、それだけではなく、ゆったり流れる時間が、お客様同士の心を解いているのです。



Special Feature1

ゆったりクルーズの魅力

新たな自分との出会い

前から興味はあったウクレレ。忙しくてお教室に通えなかったけど、このクルーズでチャレンジ！
 周りの方たちも初めてっまい。やってみたら「私に向いてるかも!」と。ずっと続けてみようかな。
 新たな自分との出会いが、ゆったりクルーズの魅力。



ウクレレやフラの教室、科学や芸術の分野の講師による講演会への参加など、その好奇心の背中を押してくれるのも、船旅がもたらす心の余裕だと思えます。

クルーズディレクター
 増田 裕太



「飛鳥II」で会いましょう

明けていく空のグラデーション、
 絶海の孤島と空を舞う海鳥。
 ティーブレイクにまどろむ中で、
 キャプテンが知らせる方角にイルカの姿。
 スコールのち、水平線いっぱいの虹。
 飽きることがない毎日。
 洋上で息をのむような感動との出会いが、
 ゆったりクルーズの魅力。



飛鳥IIとの世界一周は これが最後



飛鳥II 2025年
世界一周
クルーズ

●横浜発着

2025.3/31(月)～7/11(金) 103日間

●神戸発着

2025.4/1(火)～7/12(土) 103日間

3/31	横浜	日本
4/1	神戸	日本
4/8	シンガポール	シンガポール
4/18	レユニオン島	フランス領
4/24・25	★ケープタウン	南アフリカ
4/28	ウォルビスベイ	ナミビア
5/8	テネリフェ島	スペイン
5/12	バルセロナ	スペイン
5/15	ポルト	ポルトガル
5/17	ビルバオ	スペイン
5/20・21	★ルーアン	フランス
5/23	ティルベリー	イギリス
6/1	ボストン	アメリカ
6/3・4	★ニューヨーク	アメリカ
6/7	ナッソー	バハマ
6/11	カルタヘナ	コロンビア
6/12	パナマ運河通航	
6/15	プンタレナス	コスタリカ
6/20	マサトラン<初寄港>	メキシコ
6/24	サンフランシスコ	アメリカ
6/30・7/1	★ホノルル	アメリカ
7/11	横浜	日本
7/12	神戸	日本

★一泊停泊

旅行代金

8,000,000円～40,200,000円
(2名1室利用時お一人様代金)

ワールド特別旅行代金

6,000,000円～30,150,000円
(2名1室利用時お一人様代金)

※2024年10月31日までに全額お支払いいただいた場合。

●燃油価格の高騰に伴い、燃料費用の一部をお客様にご負担いただく場合がございます。

●詳しくは飛鳥クルーズホームページをご覧ください。

これまで「飛鳥II」は13回の世界一周クルーズを行ってきました。

数々の寄港地を巡り、かけがえのない出会いや思い出、そして感動を生んできた「飛鳥II」での世界一周も、

2025年にフィナーレを迎えることになりました。

12カ国、18の寄港地を103日間かけて巡る2025年世界一周クルーズ。

飛鳥クルーズの約20年にわたる経験を活かして厳選した寄港地では魅力的な寄港地観光ツアーをご用意。

そして、103日間ゆったりとくつろいでいただけるように、乗組員一同が心を込めておもてなしいたします。

いつかは世界一周クルーズへと思い描いていた方も、

あの感動をもう一度体験したいとお考えのリピーターの方も、「飛鳥II」最後の世界一周クルーズへ、ご一緒しませんか。

Cruise Information

インクルーシブ特典

- 夕食時のアルコールを含むドリンクが無料
- Wi-Fi接続回数無制限

My ASUKA CLUB特典

寄港地観光ツアーやお買い物に使える船上クーポン進呈

「南半球で見る天の川銀河は、大きくて明るいですね。そのまんなかあたり、あれがサザンクロス、南十字です。そのちよつと左側に見える星の集団がジュエルボックス、宝石箱とよばれている散開星団（NGC4755）です。6400光年、100個ほどの星がぎつしり集まっています」。2018年、オセアニアグランドクルーズで行った船内講義に続いての星空案内だ。場所は最上階のデッキ。見ている星空が飛鳥Ⅱの煙突からの煙にかからないように、その都度、船の位置を変えての観望という贅沢な時間！

このクルーズでは、シドニーのオペラハウスでのコンサート、ニュージーランドの霧の中のフィヨルド通過などをふくめて、はるか天空の彼方に見える美しい光景と、すぐ目の前に展開する風景が夢のように交差して、今、この時を生きているという幸せを感じさせてくれるすばらしいクルーズだった。

さらに、クルーズ中は、日常の電話やメールなどから解放されるので、これまで仕事に追われてなか

Cruising Library 9 Haruo Saji

なか進められなかった執筆に専念できるという貴重な機会にもなった。船の最前部、操舵室の真上に位置するビスタラウンジ。最高に座り心地のいいソファーに身を沈めてパソコンと向き合い、疲れれば、美味しいココアをオーダーして、海を眺めては目の疲れを癒すという贅沢三昧。そして書きあげたのが「詩人のための宇宙授業」金子みすゞの詩をめぐる夜想的逍遙」(JULA出版局)だった。

その後、コロナ感染症蔓延で、クルーズが延期されたりしたが、ようやく2023年、神戸〜横浜クルーズへの乗船が実現。2020年に行われた改装で新たに設置された動く海を見ながらの露天風呂を満喫、駿河湾沖からは、遠く夕映えの中に浮かぶ壮麗な富士山、そして、ストロベリームーンの満月が波に砕け散る一夜を過ごすことができた。そして今、2025年就航予定の飛鳥Ⅲを含めて、再び乗船できる日を夢見て過ごすことが長生きにつながるのではと思っている。



Illustration by Naoko Takayori

Profile

さじはるお／1935年、東京生まれ。理学博士(理論物理学)。東大、ウィーン大などの研究の後、玉川大、県立宮城大教授、鈴鹿短大校長などを歴任、現在、同大名誉学長、大阪音楽大客員教授、北海道美術(MISORA)天文台台長。無からの宇宙創生にかかわる「ゆらぎ理論」で知られる。日本文藝家協会所属。

昨年の「秋の日本一周クルーズ」で飛鳥クルーズ二度目の登場となったのは、

唯一無二のピアニスト西川悟平さん。
7本の指で弾く

魂を揺さぶる演奏と、
奇跡の物語が散りばめられたトークで
お客様を魅了しました。

ASUKA
Cruise
Interview
number

8

Gohei
Nishikawa

飛

鳥IIは僕にとって本当に
思い出深い船です。

2018年の世界一周クルーズの時にアイルランドのダブリンから、カナダのハリファクスまで一週間乗船しました。その時のステージで「東京オリンピックで演奏をします」とお客様に宣言しました。その時は、何の確約もない夢。その大きな夢がかなって、今回皆様へ報告できます。クルーズディレクターは「凱旋コンサート」と言ってくれているとか。嬉しい限りです。僕はいま「ジストニア」という神経症の運動障害があつて7本の指でピアノを弾いているんですが、20年前には医師から「二度とピアノは弾けない」と

言われていた。世の中の常識では「絶対無理」ということも、でも「できるんじゃない？」ということを確認したくてここまでやってきました。

今現在は、銀座のスタジオで週2回のコンサートと全国の学校をまわっています。僕のこれまでの経験をもとに「最悪のできごと、ちょっととした考え方と行動の違いで最高のできごとになる」というエピソードと演奏で、次世代の背中を押せればと思つて取り組んでいます。

高

校の時に、チューバという楽器で音大に行こうとしたら「ピアノが必須」と言われ、慌てて「ド、ミソ」と

西川悟平さん

photographs by Kazuhisa Natori

最悪のできごと、
ちょっととした考え方と行動の違いで
最高のできごとになるんです。

2023年10月
「秋の日本一周
クルーズ」にて



始めたら「あれ？ピアノが好きだ先生！」となって。「悟平くん、どこがドかわかってんの？」で、弾いたらファだった。「君、ドもファもわからん子が音大行けるわけない。ピアノ科なんて！」って。その先生に最近大阪で再会したんです。コンサートに来てくれて「悟平くん、絶対無理とかなかったなあ」って言われました(笑)。
25歳の時、大阪でスカウトされてニューヨークに出てきた僕は、デパートの和菓子屋の店員から一転、大ピアニストによる3ヶ月にわたる猛特訓のちに、全米屈指の演奏会場であるリンカーンセンターで約1000人の前でプロのピアニストとしてデビューしました。続いてカーネギーホールでも演奏し、バラ色のスタートから活動の場を広げようとしたとき、僕の指は急に動かなくなりました。神経症の病気で、治療法がまだ見つからない難病だったのです。バラ色の人生は一気に暗転します。幼稚園のアシスタントの職を得たのですが、単純な童謡さえ1年以上、

上、どれだけやっても10本指で弾けません。あきらめかけた頃、幼稚園でめちゃくちゃな指遣いで「きらきら星」を弾きました。すると子どもたちが歌いながら踊りだしたのです。その様子にハッとしました。「指遣いなんてどうでもいい、動く指だけで弾けるようになるう！」。1音1音に心を込めることしかできない、そうすると逆にそれが個性となって、再びカーネギーホールからオフアワーがあつて、イタリアの大聖堂でのコンサートの依頼があつて。そして、東京2020のグランドフィナーレにつながったんです。「僕についてないよね」という人生も「指よ7本動いてくれてありがとう！」と見方を変え行動を変えたら全く違う人生が開けたのです。
前回の乗船で何人かのお客様と一緒に食事をしたり、お話をする機会があつて今も文通が続いています。皆さんいろんな人生を送られている。大変な苦労をされて成功を手に入れられてたり、一生に一度の夢として頑張つて乗船されてたり。「飛鳥II」という船はいろんな人の人生を乗せている。でもここでは皆さん笑顔で、限られた時間ではあるけれど一緒に夢を見ることが出来る素敵な場所。僕もまた戻つて来られて本当に嬉しく思っています。

ニューヨークを拠点に活動し、カーネギーホールなどで聴衆を熱狂させてきたピアニスト。輝かしいキャリアの途中で、突如ジストニアという難病に冒されながらも、懸命なリハビリの末、7本指で再起を果たした奇跡の音楽家。2019年ベストドレッサー賞を受賞。2021年「東京2020パラリンピック閉会式」で大トリを務め、グランドフィナーレを飾る。2022年には西川悟平の半生が演出家成井豊氏の演出によって舞台化。西川悟平役をEXILE松本利夫が務める。今、世界中から注目を集めるピアニスト。

飛鳥IIは
一緒に夢を見る
ことができる
素敵な場所

Gohei Nishikawa

ようこそ！

ここは2デッキ メインランドリー

部屋に近づく前から感じるのは洗剤の香りと南の島のような湿気。ときおり飛び交っているのは陽気なインドネシア語や中国語。

から始まります。まずは、前夜に各部署から持ち込まれた洗濯物を手早く仕分けします。ここで注意するのは、お客様の衣類やアクセサリーなどが一緒に巻き込まれていないかど



ランドリーマスター

ソオンさん

長年客船のランドリーで働いてきました。「飛鳥II」のランドリーはチームワークが良く、意欲あふれる同郷の仲間たちと一緒に働けてうれしいです。きれいになった洗濯物をたたみながら、今日も楽しいクルーズを過ごしていただけているかなと、いつもお客様のことを想像しています。

うか。60キロ洗える洗濯機4台と、40キロの容量を乾かせる乾燥機5台が毎日12時間フル稼働しています。ベッドシーツなどの大きなものは乾燥が終わったら巨大なフラットアイロナーへ。端をピンと伸ばして機械に入れると、パリッとプレスされた後、きちんとたたまれて出てきます。ベッドシーツ、布団カバー、枕カバーの3種類の折り方がプログラムされていて、ベッドシーツなら1分間に6枚もたためます。お客様お一人あたり、キャビンのリネン7種類と朝昼晩のお食事のナプキンが8百名様分。グラントスパのバスタオルが1日約5百枚、プールやジム、スパからのタオル類やレストランのテールブルクロスなども含めると、一日に持ち込まれる洗濯物は約1万枚にのぼります。それを10人の乗組員で、手際よくきれいにし

ています。

さらに、高い専門知識を持ったドライクリーナーとプレスの技術を持ったアイロナーもいます。衣類に付いている洗濯表示のタグも日本語の場合は、世界基準のマークとの換算表できちんと調べます。

上 野ハウスキーピングマネージャーによると、昔から世界の客船のランドリーで働いている乗組員は、約9割がインドネシア系や中華系の乗組員なのだそうです。特にドライクリーニングについては、石油系溶剤が使えないなど陸上とは条件が異なるため、「飛鳥II」でも客船での経験豊富なインドネシア出身者が多いのだそうです。

「飛鳥II」の最深部で、他部署の乗組員もめったに入っていないメインランドリー。めずらしく訪れたクラブ誌取材班を大いに歓迎してくれました。当たり前に使っている真っ白で清潔なリネン。快適なクルーズはこうして乗組員によって、今日もしっかりと支えられていることを実感しました。



手際よく
そして黙々と

力強く回る
洗濯機の向こうで
静かに蒸気をあげるアイロン



ウェイターの制服もピシッとアイロンがけ



真っ白なシーツをどんどん乾かさそう



見ているだけで気持ちの良い大型洗濯機



はずかしそうに微笑むランドリーチーム



反対側からは畳まれたシーツが出てきます



二人で息を合わせてフラットアイロナーへ



船の揺れを抑えるフィンスタビライザーは海の状態に応じて出し入れ。片側だけ出しても7割の効果があります。船底全体の赤い塗装は汚れとフジツボの付着を抑えます。



窓枠は風雨密を高めるために大きな改修を実施。改修のために取り外されたビスタラウンジ前面の窓ガラスは、一枚毎に形が違っていてご存知でしたか？



ギャラクシーラウンジの絨毯が新しく張り替えられていました。以前のもの(右下)に比べ、モダンなデザインと色調に。



19人のウエイターさん達は休暇後にドックでお手伝い。手すりのメンテナンスも1本ずつ丁寧に。



お昼の時間、船内のクルームス(乗組員の食堂)にお邪魔しました。皆さんにぎやかにお食事中でした。



スペースX社の衛星ブロードバンド「Starlinkマリタイム」のアンテナを設置。より高速で快適なWi-Fi環境をご提供します。



ブルサイドのコンテナからマットスを客室へ運ぶウエイターさん達。今回の改修では全ての客室のマットスが新しくなりました。

旅

客輸送のための乗り物は、客船でも飛行機でもバスでも、毎年国土交通省の検査が義務付けられていて「飛鳥II」も毎年ドックに入っていますが、今年は検査と大規模なリフレッシュ作業が行われました。エンジンやプロペラ、舵(かじ)などの動力部分の保守点検、安全・快適な航行のための装置類、外装や内装の大規模修繕、そして最新の機器の設置などなど。お客様が過ごされる客室やパブリックスペースもさらに美しく快適になりました。

「どこがキレイになったの?」「何か変わったの?」そうお客様は感じられるかもしれません。でも、普段なにげなく触れるバルコニーやデッキの木の手すりさえ、分解し磨いてニス塗り直してあるんです。

普段は見られない、クルーズの安心と快適をささえる「飛鳥II」のメンテナンスをご紹介します。

工芸作品もメンテナンスで入れ替わりました。

最初の船内展示は、私たちも初めてのことであったので大型で高価なものが多くなってしまいました。今回は作家の先生方をお願いして、もう少しお求めやすく展示スペースに合う大きさのものを選んでもらいました。生活の中に置いて美しく、使って楽しむ。それが本来の日本の美術の特色であり、工芸品はその大きな部分を占めています。飛鳥クルーズとの取り組みはその最先端にあり、作家の方々の喜びにもなっています。工芸作品のある日常をどうぞお楽しみください。

日本工芸会 常任理事
(MOA美術館 館長)

内田篤典



点検整備を終えた巨大なスクリューと舵。
2つのスクリューは左右逆に回転することでバランス良く推進。羽の角度が左右で変えられる。コントロールラブルピッチプロペラです。



特集2
クルーズの安心・安全と快適をささえる

「飛鳥II」のメンテナンス

普段はみることのできない年に一度のメンテナンス作業。クルーズの安心・安全と快適をささえる現場には、「驚き」と「なるほど」がいっぱいでした。

Photographs by Kazuhisa Natouri



佐世保造船所第4ドックは長さ400m、深さは15m超。完全に水を抜いたドライドックで高さ180cmの盤木の台に乗った「飛鳥II」は息をのむほどの迫力です。

「飛鳥Ⅱ」という船をひとつの芝居小屋に見立て、日本の伝統芸能や文化を伝えていこうという「飛鳥座」クルーズ。今回、お迎えしたのは、坂東玉三郎さんです。

初日は、「世界の名曲を歌い上げるスペシャルコンサート」。シャンソンの名曲や、ミュージカルナンバーに加えて、井上陽水や玉置浩二など日本のシンガーソングライターの曲を歌い、選曲にこめた想いも話してくださいました。「実は映画『タイタニック』の主題歌をここで歌いたかったのですが、さすがにやめました」というエピソードにお客様が拍手喝采。「それでは、ぜひ次の機会には」と、こたえた玉三郎さんに、会場のお客様も大喜びでした。

そして、2日目は待っていました！坂東玉三郎特別舞踊公演。まずは口上から。「こうして、船をすべりますと、来し方行く末をふと考えます」という冒頭から、グレタ・ガルボがハリウッドを去りスウェーデンへ帰る船上で撮られた1枚の写真からイメージされた船旅のことなど、玉三郎さんの静かな語りぐつと引き込まれていきました。

場面は一転、舞台上に敷いた緋毛氈の上に長唄と、三味線、笛、鼓といったお囃子方が並び、そこへ春に戯れる蝶のように華やかな美女が浮かび上がります。巡る四季の中、舞い踊る傾城に目を奪われ、ここが船上であることも忘れてしまうひとときでした。醒めてしまうのがなんとも惜しい、春の夜の夢のような、二夜でした。

春の夜の夢 訪れた船上に



美しい日本語で語られる
船にまつわるお話
お人柄を感じられた口上

「飛鳥座」クルーズ

坂東玉三郎

Bando Tamasaburo

クルーズリポート

傾城の思い人待つせつなさが
二つのしぐさ
眼差しからあふれてくる



バラエティあふれる選曲
絶妙なアレンジで
玉三郎さんの歌声が冴える

コラボレーション ディナーができるまで

今回の「飛鳥座」クルーズに先立ち、今年1月に「飛鳥Ⅱ」の内藤和食料理長は福岡の久原本家へ向かい、最初の打ち合わせを行いました。

その後も茅乃舎の岡部料理長ともやり取りをし、どのお料理にどのように茅乃舎だしを使用すれば、より食材をひきたてることができるか検討を重ねていきました。関係者による博多港での試食会を経て、ついに今回の献立が決まったのです。

「焼きあごや鰹節、真昆布、うるめいわしなどの素材が絶妙に調和して生まれる茅乃舎だしの風味を活かして、春の季節をたっぷりと感じられる献立ができました」と内藤和食料理長。



右：茅乃舎 初代料理長 岡部健二
左：「飛鳥Ⅱ」和食料理長 内藤一馬
(撮影 福島啓和)



玄界灘産の鮭を
昆布でしめて塩焼きに

茅乃舎だしでからだを温めて
目にも美しい桜茶碗蒸しへ

夜桜に見立てた桜エビと
イカの甘みを活かしたお寿司

今回のクルーズでは、久原本家「茅乃舎だし」を使用した特別な和食ディナーが提供されました。茅乃舎の岡部健二初代料理長と「飛鳥Ⅱ」の内藤和食料理長は、今回のコラボレーションにあたり、何度も打合せを重ね献立を作り上げていきました。

日本料理の神髄であるだしに、旬の食材を合わせて、両方の良さを引き立てるような一品をという事で考案され

たのが「蛤と十穀米飯蒸し 銀箔かけ」です。焼きあご(トビウオ)を使用したコクのある茅乃舎のおだしが、ふっくらとした旬の蛤を主役に、穀物のうまみをよりひきだしていました。

他にも、夜桜に見立てた創作寿司や、鱈、新竹の子とわらびの含め煮、あわびの桜蒸しなど、春爛漫のお料理にお客様も大満足でした。



鹿児島産の新竹の子と
春わらびの含め煮

あわびをやわらかく
桜の風味で蒸しあげる

だし香る十穀米の中に
蛤と百合根を隠して

歌舞伎の世界を 堪能する 船内プログラムが いっぱい

鏡開き

Program 1

大勢のお客様が待ち受ける吹き抜けのアスカプラザに登場したのは、飛鳥の法被を羽織った坂東玉三郎さん。渡辺船長と、小川ホテルマネージャーとともに飛鳥座の開幕を祝し、鏡開きで乾杯。一合升には玉三郎さんのお家紋と「飛鳥Ⅱ」のロゴがあり、うれしい記念となりました。



特別展示

Program 2

コンパスルームでは、玉三郎さんの衣裳や帯、かつらなどが展示されました。中でも豪華なのが、『壇浦兜軍記』の阿古屋の補襦。平安時代を象徴する御簾に平家の紋を模した蝶が舞い、大輪の牡丹があふれんばかりに全面に刺繍されています。みごとな刺繍の孔雀の帯や、鼈甲のかんざし、交差する遊女のかつらなども、間近で見ることができました。



邦楽演奏会

Program 3

夜、パームコートで行われたのは「音楽で聞く玉三郎さんの世界」です。総勢13名の長唄・お囃子方が並ぶと、まるで歌舞伎座が「飛鳥Ⅱ」に引越してきたようです。田中傳左衛門さんによると「自分が前で踊っていないなくても、踊っていることを想像させるような演奏をするように」と、いつも玉三郎さんに言われているとのこと。目をつぶり、演奏に身をまかせると、「飛鳥Ⅱ」は清水港に向け静かに海をすすんでいきました。



歌舞伎音楽講座

Program 4

2日目の朝、ハリウッドシアターで行われたのは、お囃子方による音楽講座です。田中傳左衛門さんによる笛や、小鼓、大鼓、太鼓、三味線などの楽器紹介は分かりやすく、互いを見合わずとも間を合わせるができるという様子を祭りの囃子の演奏で実演してくださいました。軽快な祭り囃子が夜の特別舞踊公演への期待を高めます。午前と午後と開催されましたが、満員御礼の講座となりました。

山岸一男

人間国宝・山岸一男さんを訪ねたのは2022年夏。現在、先生は金沢市に避難していらっしゃいます。郵船クルーズは能登の工芸作家の皆さんが少しでも早く創作活動に取り組めるよう日本工芸会を通じて寄付を行いました。日本工芸会では随時寄付を受け付けています。詳しくは二次元コードからご覧ください。



多くの職人の力で

輪島の漆器はできている

私はこの家で4代目の轆轤師(ろくろし・轆轤でお椀などの木地を挽く職人)になるはずでした。しかし、義理の父が「やりたいことがあるならやってみよう」と言ってくれて、今の道へ進むことができました。初めて東京で個展を開いた時「木地を作る人の気持ち分かるようになれよ」と言われたことは今もおぼえています。木地は漆で黒く塗ってしまったり、もう見えなくなってしまう。でもその工程が確かなものでなければ、塗りに影響してくる。輪島の漆器は多くの職人の力が合わさっています。けっして二人ではできないのです。

職人の世界というのはおもしろくて、手の内を全部明かす人はいません。松田権六さんが著書『漆の話』の中で、日本の工芸の源流は正倉院にあるとおっしゃっていて、私も二十歳の頃から毎年欠かさず正倉院展に足を運んでいます。どうやって作ったのだろうと、自分の目でじっと見るのです。誰も答えてくれませんが、あつたこともない作者たちの声を聞きとろうとする、あの時間が一番大切なのかもしれないと思っています。

間垣の里の美しい夕暮れ
残したい能登の風景

テーマを決めたら、まず荒っぽい下絵を描いて、ちよつと煮

詰まってきたら、取材をしたり、実際に現場へ足を運びます。色は一度間違えると、もう元に戻ることができません。そのため、この植物はこの季節の光の中で見たら、本当にこの色だろうかということは何度も確認するのです。

「能登残照」という作品は、間垣の里と呼ばれている集落の晩秋の夕暮れをモチーフにしています。能登の海岸線の集



落ではシベリアからの季節風を防ぐために竹の間垣(写真左下)で家を囲っています。中学からの帰り道、夕暮れに染まる集落を歩いていると、沖合には漁り火が見え、間垣の間からは家々の灯りがもれてくる。その光景が頭から離れなくて、いつか作品にと思っていました。普段当たり前に見えている風景も気がつけばなくなるといふこともある。今のうち

に描いておかねばと思い、作品にしました。

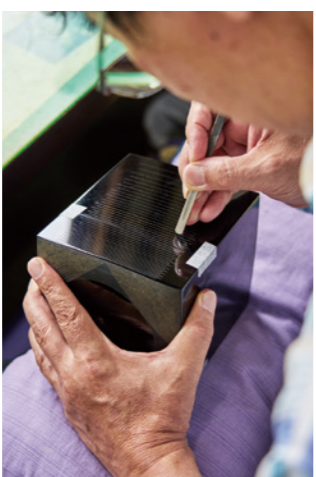
技術と素材をちりばめて

漆の黒を美しく見せる

漆の黒は漆にしかない色です。長くこの仕事をしてきて思うのは、沈金も螺鈿も、いかに漆の黒を美しく見せるかということ。漆を彫ったところに黒漆を入れることを私は沈黒と呼んでいます。磨かれた黒と磨かれていない黒で、同じ黒でもトーンが変わります。漆を彫って、金を入れたり、また磨いて他の色を重ねたり、貝を埋めたり。非常に時間がかかりますが、それぞれの貴重な材料を活かして、二つの器物の中に技術も材料もちりばめていきます。

「飛鳥Ⅱ」に展示されている「菊水」は、菊の花びら1枚1枚を彫刻刀で削り出しています。削り出した貝は磨いていくと惚れ惚れするほど美しい。白蝶貝の白い部分を花びらの形に重ね、さらに黄色の部分を組み合わせています。漆を彫って花びらを入れた後、すきまなく黒漆で埋めています。

作品を船上で



土地柄というか
負けじ魂というか
我慢強さは
僕も少しもらってる

Vol.05

石川 輪島

漆芸

Kazuo Yamagishi



朝食は一日の始まり。洋食ビュッフェのグリルコーナーでは、定番の卵料理やスイーツをお出ししています。作りたての温かいお料理をどうぞ召し上がれ。

今朝は何を 食べましょうか？

リドガーデンの 朝食グリル



中はしっとり
外はカリッとした
フレンチトースト



季節のフルーツを
添えた
パンケーキ



生クリームと
バナナの
クレープ



ペストリーシェフ
阿部竜馬さん

朝のフレンチトーストで
たっぷり自分を甘やかす
これぞ至福のひとつ
だって、クルーズですから



コック
ハイメさん



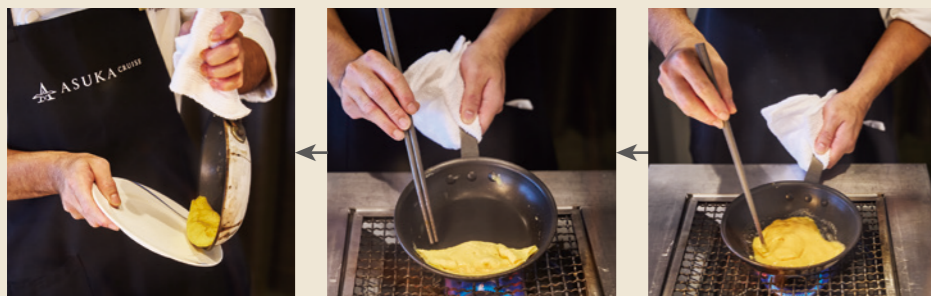
ふんわり
プレーンオムレツ

楽しい一日への期待にあふれる朝食の時間、11デッキ、リドガーデンでは作りたてのオムレツやフレンチトーストなどをお出ししています。さあ、今朝は何を食べましょうか？

それでは、人気のオムレツから注文してみましょう。朝食はオムレツと決めている方も多いのでは？ 多いときは一日で120皿以上の注文があるそうです。作ってくれたのはハイメさん。お箸を使ってクルクルと手際よく巻き上げていきます。フライパンをよく熱しておいて、短時間で卵を巻くのがコツだそうです。ハイメさんもグリルにデビューするまでは自主練習を重ね、100個ちかく焼いて特訓したとか。そして、できあがったプレーンオムレツのお皿に、ウェイターさんが描いてくれるのがケチャップアート。お皿の前に、思わずニコリしてしまいますね。

さて、続いて甘いものもいかがですか？ 定番はフレンチトースト、パンケーキ、クレープの3種類。中でも一番人気はフレンチトーストです。作ってくれたのはペストリーシェフの阿部さんです。コツは卵と牛乳に一晩しみこませた厚めのバゲットを、じっくりと時間をかけて焼いていくこと。内側がプリンのようにしっとりとしてきます。両面をカリッと焼いてパウダーシュガーを振ったらできあがりです。パンケーキやクレープは、季節や寄港地に合わせて添えるフルーツなどが変わるので、乗船のたびにちょっとした変化が楽しめます。

リドガーデン、リドカフェではビュッフェスタイルの朝食とともに、グリルコーナーからお出しする作りたてのお料理もお楽しみいただけます。洋上で過ごすゆったりとした朝のひとつ、大きな窓から見える海の景色とともにお食事をお楽しみください。



How to cook

くるりん、とできあがり

フライパンの縁を使って

O

お客様と
飛鳥II
そして
寄港地を結ぶ
オンライン
ショップ

Online Shopping

おうちでもっとASUKA II

船を降りたあとも
日常でも使いやすい
スタイリッシュなアイテム

この春、登場した新シリーズ、URBAN STYLEは年齢や性別を問わずお使いいただけます。さまざまな商品がそろっています。シンプルなロゴとイラスト、そして都会的で落ち着いた

カラーリングなので、日常使いにもぴったり。Tシャツやポロシャツ、キャップなどは休日にとりやすくお召しいただけるデザインです。また、タンブラーやトートバッグ、ポーチなど普段

の暮らしの中で手にする度に、「飛鳥II」を思い出していたいただけるラインアップです。さらに、これまでになかった商品がリサイクルレザーを使ったマルチケースです。Sサイズは名刺や小物入れ、Mサイズは眼鏡ケースやペンケース、Lサイズはノートパソコンやタブレットなどのケースとしてお使いいただけます。ドイツの老舗素材メーカー、サラマンダー社

の「リサイクルレザー」は、革製品を製造する際に出る革の端材を粉砕し、樹脂と混ぜ合わせてシート状にしたもの。これまでは捨てられてきた端材をアップサイクルした環境対応素材でありながら、天然皮革ならではの風合いを感じられます。今後も新商品が加わる予定のURBAN STYLE、ぜひお楽しみに。

Online Shopping



落ち着いたカラーと
シンプルなロゴで
いつでもさりげなく
「飛鳥II」と一緒



PICK UP!

使いやすい色味と、スタイリッシュで都会的デザインの商品なので、フラッグショップでも多くの方にお手に取っていただいています。タンブラーやハンドタオル、またリサイクルレザーを使ったマルチケースなど雑貨も充実しているので、選択の幅も広がったのではないのでしょうか。個人的には、キャップが気に入っています。寄港地観光ツアーのアテンドなどでも着用し商品の魅力を発信していきたいです。

URBAN STYLE

新商品!
使い方自由な
リサイクルレザーの
マルチケース



「飛鳥II」ショップクラーク
紫垣 芙水 さん

熊本県出身。2020年にショップクラークとして乗船。雑貨販売の会社で勤務経験があり、ディスプレイが得意。休暇中は実家のセキセイインコを愛でたり、旅行を楽しんでいる。



Cruise Desk

クルーズデスクから 江頭紀光子



世界一周クルーズ中の『幸せの船』飛鳥IIでウェディングセレモニー

今年の世界一周クルーズ中、一部区間に新婚旅行としてご乗船頂いたお客様のお話です。そのお客様の事は実は数年前100号のAsukaクラブ誌でご紹介した事がありました。恋をした女性に治らないご病気がある事を承知の上で、結婚され、10年前の世界一周クルーズの最後、ホノルルから日本までの区

間に新婚旅行として乗船された方の事です。その時にそんな深刻な事情がある事は知る由もなく、日々明るい笑顔で楽しんでおられたお二人のご様子が目に焼き付いています。その後「飛鳥II」をこよなく愛し、結果的に奥様の命が尽きるまで、天国への旅立ちの直前まで可能な限り乗船してください

ました。奥様を亡くされた後も、亡き奥様の「飛鳥II」に乗り続けて欲しい」という遺言通り、その男性は年に数回おひとりご乗船して下さっていたのですが、私は心の中で心配もしていました。でもある時「幸せな結婚をして欲しい」という遺言もあつた事、そのために努力をしておられる事を知り安心もしたのでした。そして冒頭でご紹介した今年の世界一周クルーズのヨーロッパ区間に、新婚旅行として乗船して下さったお二人のストーリーに繋がります。新婚はすべ

での事情を理解し、その男性の心根の優しさに惚れ込まれたに違いありません。Something Greatのお引き合わせで出会われたお二人が、何かにつけ天国で見守る。女神にお二人で心を寄せ合っておられる姿勢には心打たれました。船上で撮影されたウェディングフォトは2024年世界一周クルーズフォトエッセイ(5/22付)にアップされています。「飛鳥II」と「飛鳥III」が最幸の船であり続ける事、それが私達の使命である事を再認識した出来事でした。

C

おまかせデスクの笑顔さん⑨

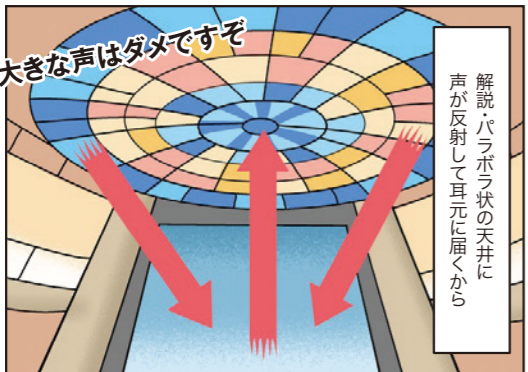
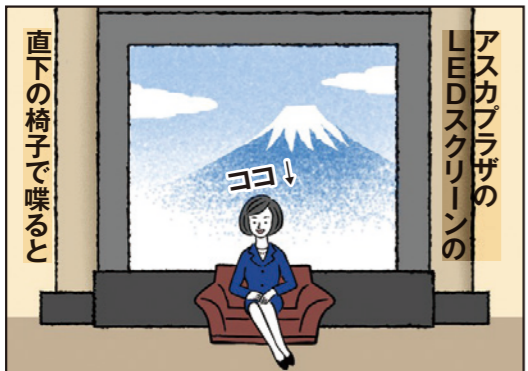
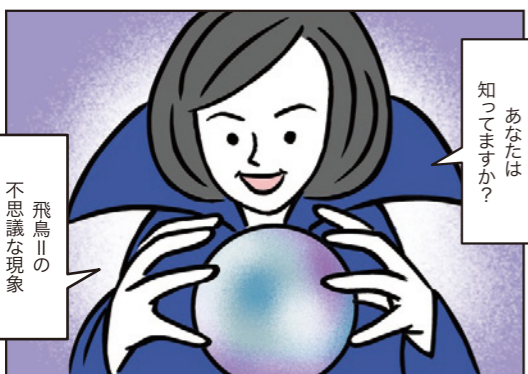


Illustration by Nobuo Kusunoki

